平成25年度のパイン缶詰関税割当数量（TQ枠）

農林水産省より平成25年度（平成25年4月～平成26年3月）のパインアップル缶詰の関税割当数量が公表され、割当数量は4万1千600トンで、前年の割当数量4万7千100トンに比べて5千500トン減、缶詰換算（※）では、203万8千ケースで前年の230万7千500ケースに比べ26万9千500ケース減となりました。

※1ケース=20.412kg換算　　平成25年度TQ枠比率（沖縄品:輸入品）=1:63.6

平成24年度　　=1:64

関税割当数量は、毎年、沖縄パインの生産状況及び輸入パインの需給バランスを考慮の上、決定されます。近年輸入パイン缶詰の総需要量が減少しており、それが関税割当数量の減少に影響していると言えます。

沖縄パイン市況

昨年の大型台風（15、16、17号）の襲来によって、新植したパインなどが落ちたり、根が揺さぶられるなどの被害を受け、生育が遅れて小玉果が多くなった理由により、缶詰原料として2千トンの収穫量を予想していましたが、最終的には1千250トン程度となり、缶詰の生産量も2万1千ケース程度で終了しました。

2009年7月に国と地元が出資して完成した沖縄総合農産加工の工場（沖縄県東村）は、年間約3千600トンの生産体制を有しており、缶詰の生産能力は約6万3千ケース（3号缶3ダース換算）有りますが、昨年の生産量は約2万1千ケースとの結果で、生産能力の3分の1しか稼働しませんでした。今年度は、1千800トンの原料集荷を計画しています。

輸入パイン産地市況

【インドネシア】

GGPC社自社農園の作柄は、2012年秋からの旱魃の影響により本年2月頃までは減産傾向でしたが、3月から徐々に回復しており、今季作柄は平年並みの予想です。

価格動向は、タイを若干上回る強含みで推移していますが、今後のタイの動きを見据えながら堅調に推移する模様です。

【タ　イ】

本年の作柄、生産状況は昨年並みで推移すると予想されています。需要動向に関しては、2012年は平年作だったものの、EU経済の悪化による需要の落ち込みが大きく、今年も、EUの回復に大きく左右される事が予想されます。

【フィリピン】

作柄は、今年の夏以降は収穫高が減少すると予想されていますが、今季年間トータルでは、減産だった昨年と比べて20-30%の増産が見込まれています。